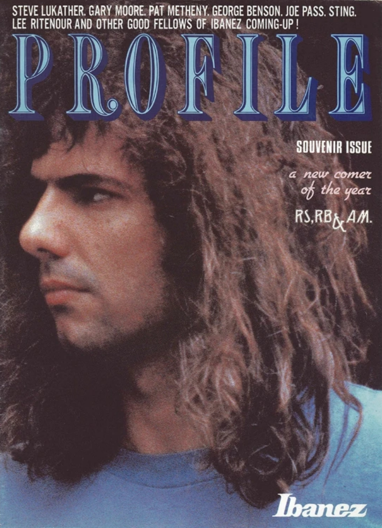
STEVE LUKATHER. GARY MOORE. PAT METHENY. GEORGE BENSON. JOE PASS. STING.
LEE RITENOUR AND OTHER GOOD FELLOWS OF IBANEZ COMING-UP !

PROFILE

SOUVENIR ISSUE

a new comer of the year

RS, RB & AM.



Ibanez

INTRODUCTION :

世界一強い国、世界一金持ちの国、世界一自由な国、世界一よい国。世界一が世界一好きなアメリカ人が評するアメリカ、にないものは世界中にない。アメリカで起こりえないことは地球上どこにも出現しない。アメリカにとって必要なもののすべてがアメリカにある。
1492年10月、この大陸の東の端で、正体不明のパニックを経験した男たちがいた。クリストファー・コロンブス一行である。
この日をさかいに、何もない、あるのはただ陸地という無限の広さをもつ大陸に、すべてのモノ、コトがおしよせはじめた。
世界中のあらゆる国々から様々な民族が、それぞれ固有の文化をもってやってきた。アメリカ合衆国は、現在もなお、その歴史をくり返し続ける。
イバニーズギターも、そんなアメリカン・ムーブメントの中でアメリカにやってきた、エスニック(移民)である。「アメリカ人は、アメリカ人に生まれるのではなく、アメリカ人になるのだ。」というたとえをそのまま当てはめれば、イバニーズは日本のギターでなく、アメリカのアイバニーズである。
1908年、最初のイバニーズギターがコンプリートされて以来、イバニーズはアイバニーズだったわけだから、もう完璧なアメリカン・シチズン（アメリカ市民）である。アメリカ合衆国は、弱肉強食の国である。弱いものは自然に陶汰されていく厳しい現実主義の国である。そんな環境の中にあって、アイバニーズは、友とする10本の指たちを増やし続けている。旧大陸ヨーロッパでも同様である。ロンドンのスタジオ、パリのステージ、その他、洋上の小島でさえ、イバニーズギターは音楽を生み出し続けている。
写真のナンバー・プレートは、アメリカで実際に走っている車につけられているものであり、ここにあるディスクは、イバニーズギター・ユーザーによりレコーディングされたものだ。又、思わぬジャケットのクレジットの中に、COURTESY OF IBANEZ GUITARSというタイポグラフィを発見することがある。最近では、バーゲンセールの大量のレコードの群の中から引き出した1枚、ジム・メッシーナのオアシスがそれである。過酷なミュージカル・イクイップメントのビジネスの中に生きる私たちが遭遇するオアシスそのものの瞬間でもある。
身びいきかもしれないが、サウンドクリエーションで名前を上げたプレイヤーたちに愛用者が多いように思われる。凝り性のお客さん達は、いつも私たちを悩ませるが、力強いアドヴァイザーでもある。我々の多くのギターが、アーティストとのスタッフワークでクリエイトされたが、とりかかりは、コロンブスとアメリカ大陸の出会いのようなケースが多い。"PROFILE" と題された'83イバニーズ・カタログは、イバニーズギターのLINE-UPを出来るだけ詳しく紹介することは勿論だが、そんなアーティストとアイバニーズギターのリレイション・シップについてもふれてみたい。トップアーティストの心あたたまるパーソナリティや、ジャーナリズムに登場していないプライベート・アクトなど、興味のつきぬことではないだろうか。ギタープレイヤーとしてのグローイング・アップに、若干なりともお役に立つものと思う。
"PROFILE"はその意味で、イバニーズ・グッドフェローズの "PRO'S" ファイルでもあります。



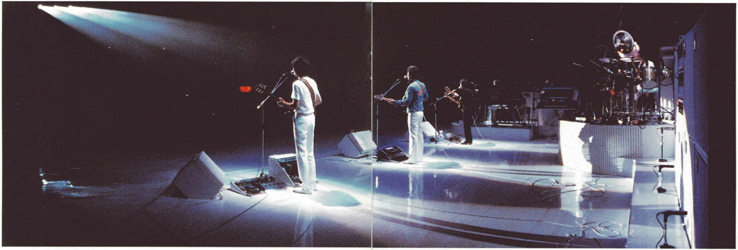






自分に帰る旅の終着点が、彼のスターティンググリッドだ。

オフコース、彼らは自分たちがいかなる他者でもない彼ら自身であることを知っている、現代日本における極めて稀なアーティストである。アイデンティティの確立なんて言葉がもてはやされ、「私」の分析が流行したりする奇妙な風潮のなかで、オフコースは10年間、淡々と音楽をやってきた。「最良の音楽」を虎視眈眈と見すえながらごく普通に生活してき



た。オリジナルメンバー、小田和正、鈴木康博の生き方には、誰かのように、とか、何かになろうとか、いう方法論は一切見あたらない。これはすごい。ただものではない。最初か



ら「私たちは私たちです。お気に召したら。」なんていう世渡りは危険きわまりない冒険行である。82年までのレコードセールス、コンサート動員数など、驚戚的な数字を前に、最もとまどっているのは、実は彼ら2人なのかもしれない。

オフコース、イバニーズ推進、モースト・ヴァリアブル・パースン・イン・ジャパン。



AR550PW

AR550CS

鈴木康博(オフコース)

AR550PW・CS

オフコースサウンドのビーンと張りつめた、心よい緊張感のバックボーンは、鈴木康博（通称ヤスさん）のギターワークによるところが大きい。オンステージやレコーディングで数々のイバニーズが彼によって演奏されている。AR550は、ヤスさんのアドヴァイスをもとにカスタムメイドされたものがベースになっている。ARシリーズのプロダクトポリシーである"鳴り"を徹底してつきつめた上、3 Band EQをサーキットし、スタジオワーク、ライブなど、すべてのサウンドフィールドでの要求を完璧にこなすはず。あえてパッシブトーン回路を取り除き、複雑になりがちなシグナル経路での高域ロスやノイズを極限までカットしています。

Southern California Sun

南カリフォルニアの太陽をたっぷりとあびて、何不自由なくグローイング・アップしたような
L.Aスタンダードが、1本のギターを手にした瞬間、全く別のやりきれない男に変身する。
スティーブ・ルカサー、1957年生まれ。
80年代のギターサウンドは、イバニーズとこの天才の10本の指がリードする。

Genius



STEVE LUKATHER



STEVE LUKATHER

「ヘイ、スーパースター！」と声をかけると「誰のことだ。」と応える。ジャパン・ツアーの武道館前、トト会いたさにつめかけた群衆を見て「何してるの、この人たちは？」「きみたちのオーディエンスさ。」と答えると、口笛一ふき。「すげえ！」「おい、ジェフ見ろや、あれ、俺たち見にきてるんだぜ。」もう大さわぎである。
かように彼らは天真爛漫、天衣無縫。音楽が人間の形して歩いているようなもの。
知ってか知らずか、目下、L.Aのミュージックシーンは彼なくしてははじまらない。西海岸で最も多忙を極める男である。ベラボーなお人好し、表も裏もあのカリフォルニアの太陽から、まる見えにしている。ギタリストとして、少しはましな方、ぐらいにしか自分を見ていないんじゃないかと思えるふしもある。驚愕のハイパー感性、空跳ぶミュージカルスピリット。こだわりがない。好きなことならなんでもやっちゃう。ギャラがあろうがなかろうが、その気になれば例のプレイをご披露してしまう。それがミュージック・ビジネス界に一風吹かそうが、吹かすまいが、知ったことではない。
そんなスティーブに我々のNew GuitarをためしてもらおうとTelすると、「やたらいそがしいのに……」と言いながら、奥さん同伴で、待ち合わせのレストランへやってきた。あまり紹介されていないが、ランナウェイズというグループを御存知だろうか。金髪のリードヴォーカルが、黒のアンダーウェアでがんばっていた。彼女のお姉さんだか妹さんだか聞き忘れたが、が、ヒズ・ワイフである。
スティーブはギターを見るなり、そこで始めちゃう。「スティーブ、きみは早弾きで有名なんだけど……」と言いかけると、「このくらいかい」あいた口がふさがらないプレイ。そして「ごきげん！」と、どなる。以来イバニーズは彼の商売道具になった。これがこうなっているでしょ、だからここをこうして、こうなるとね。というタイプじゃないから、良いか、悪いかしか判断しない。厳正明解なギター評論。こういう人は恐ろしい。遠慮や計算なんてこれっぽちもない人だから「ごきげん！」ならごきげんなギターなんだろうと思うしかない。スティーブ・ルカサーのギター、ARシリーズの中からは305と112。手は全く加えていない。ギターショップにディスプレイされているものが、彼の手にあるものである。彼が去年から今年にかけ、手に入れたお気に入りが、これらギターとグラミー・アワーズではないだろうか。新しいオーダーがスティーブからとどいている。近い将来お目にかけられるはずである。ご期待を。



AR305AV

AR100

ベーシックAR、ハードウエアは、あくまでも上級機種と同じ。しかもAR100オリジナル・トーンコントロール兼用"デュオ・サウンド"システムがマウントされ、豊富なサウンドヴァリエーションが自慢。ローズウッド・フィンガーボードとチェリーサンバーストフィニシュがスタンダードな風格を感じさせる。

AR305

パールアイ・マホガニーが、独得で粘りのある共振性をもたらす。これがスティーブの感性にジャストフィット。ウッドのクォリティがARのラインナップに新しいキャラクターを加えた。

AR300

セットネックギターの真髄ともいえるヴァイブレーション・トランスミッションをプレイヤーが体験できる。エレクトロニクスは、トライサウンドを採用。可能な限りのヴァリエーションをプレゼンテーションします。メイプルトップとマホガニーバックを基本に、エボニー指板のしっとりとしたフィンガリングをスーパー58ピックアップがうけとめる。レアウッドの息づかいには、ピックアップも又、ヴァイタルなキャラクターが必要。スペシャルなアルニコマグネットとのコンビネーションが、あくまでタイト、そして脅威のロングサスティンを。

AR300CS

AR100CS

AR300GL

AR300AV



AR1505AV

AR1500

ピュアメイプルトップがオーバードライブサウンドで本領発揮。マホガニー、メイプル、マホガニーで構成されるスリープライネックがウォームに鳴く。コントロールは2ボリウム、2トーン。プレーンな外観からは想像もつかない脈動が息づく。スペシャルメイプルトップと、マホガニーバック。芯の太いサウンドが特長。

AR1505

ジャズ・フュージョンタイプソリッドギターがキャラクター。スプルーストップが穏やかなレスポンスと明解なアタックレベルをゲインし、新しいソリッドアコースティックの世界を拡いた。ネックは、マホガニー。そして、フィンガーボードにはブラジリアンローズウッドを用い、ボディ材とのコンビネーションがウォームで無理のないサウンドパフォーマンスをもたらす。新開発、スーパー58ジャズピックアップがマウントされ、あらゆる表現が可能になった。



AR112AV



AR1500CS

AR1200

アッシュ材の採用でウエイトバランスとサウンドバランスをクリアー。プレイヤビリティを追求したネック角度は、無理のないダブルネック奏法を実現。ステレオアウトでネック別の音づくりも可能にした。

AR112

ARの基本ポリシーをそのまま生かした12弦。バランスの良いナチュラルフランジングを体験出来る。単なるバッキングにお使いになるかは、あなたにおまかせします。

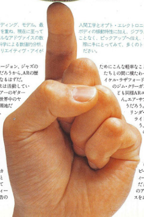


AR1200AV

AR

イバニーズギター、ロンゲスト・スタンディング、モデル。最初の一本から、リファインにリファインを重ね、現在に至っている。トップアーティストのアクチュアルなアドヴァイスの数々と、レーザーホログラフィなど最先端科学による数値的分析、さらに、スキルフルなクラフトマンのクリエイティヴ・アイが見事にバランスした逸品ぞろい。

人間工学とオプト・エレクトロニクスが、メイクス・アップしたギター。
ボディの振動特性に加え、ジブラルタルIIブリッジの装着が弦の振動をロスすることなく、ピックアップへ伝え、イバニーズ特有のサウンドが弾け跳びます。実際に手にとってみて、多くのトッププロフェッショナル愛用の理由を探ってください。



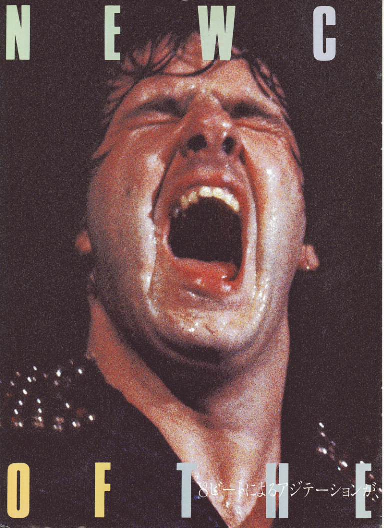
ARは60年代後半にデビューした。現在のロックシーンやフュージョン、ジャズの流れは、ちょうどこの頃形体をととのえ始めたといっていいだろうから、ARの歴史は、モダーンミュージックのキャリアとダブルイメージになるはずだ。
フラワームーブメント華やかりし頃のウエストコースト、ARは活動していた。グレイトフル・デッドのリードシンガー、ボブ・ウエイアーのギターがARだった。彼らはまだまだ健在。当時ウエストコーストは世界中のヤンガージェネレーションにしゅん烈なメッセージを発する震源地だった。ジェリー・ガルシア率いるこのバンドのディスクには、今なお衰えないフレッシュな説得力がある。ボブの絶妙のリズムカッティングが我々のスタッフを大いに力づけたものだ。シスコのベイエリアの自宅を訪れ、長い時間話し込んだ思い出がある。庭に立派なスタジオがあった。
スティーブ・ミラー・バンドもシスコのグループである。シカゴからシスコへやってきた。当時は黒づくめにサングラスのこの男もARを愛用している。ボズ・スキャグスがメンバーだったこともある。イバニーズの旧モデル、アイスマンを購入したのがつき合いの始まり、好漢である。一見カウボーイ、いや実際に郊外にランチをもち、牧童もしているという話だ。楽器ショウが開かれているときなど、身銭をきって我々をサポートしてくれる。イバニーズはパブリシティのフィールドで、たびたび我々のグッドフェローズとよく記すが、広告のためにこんな軽率なことは言えない。文字通りのフレンドシップがプロたちとの間に横たわっている。最近ソロアルバムをリリースした、マイケル・ラザフォード(ジェネシス)、ロッド・スチュアートのバンドのジム・クリーガン、L.Aの顔役、ジョン・デイヴィッド・サウザーなども同様ARユーザーたち。パット・メセニーは、12弦のお客さん。エア・サプライのレックスやデヴィドの今年の調子はどうだろう。すっかりスーパースターになってしまった。
リンダ・ロンシュタットの仲間たち、ワデイ・ワクテル、スライドギターの名手ダン・ダグモアも紹介しておこう、リンダのニューアルバムでもごきげんそのもののプレーを聴かせてくれる。それからレディングのフェスティヴァルでARを唸らせてくれたミッキー・ムーディも忘れられない。先日のジャパンツアーて、ハッピーな顔を見せてくれた。ホワイト、スネイク健在なりである。それからシーウィンドのバッド・ニュアネズ、そしてボビー・コクラン。80年代に入ってからは、おなじみスティーブ・ルカサー、風雲児ゲイリー・ムーア。ARにはまだまだ紹介しきれないグッドフェローズがいる。彼らのアルバムからARの絶妙のサウンド・パフォーマンスをあじわっていただくのも一興ではないだろうか。



パット・メセニー。1954年8月12日、ミズリー州リーズサミット生まれ。ギタープレイヤー・パット・メセニー出現のきっかけは、歯列矯生器だったという。代々優秀なトランペッターを輩出してきたメセニー家にあって、パットも例外なくトランペッターへの道を歩んでいた。だから、歯並びにさえ問題なかったら、この神童ギタリストは生まれなかったはずだ。パットについて有名なエピソードがある。バークリーへ生徒として入学したパットのあまりの上手さに驚いた学院側が、講師に抜擢したという。アル・ディ・メオラやハイラム・ブロックは、そのときの教え子だった。とにかく普通の人間のカテゴリーから逸脱した男だ。聞いていて、まさか！という過去を連続して通過してきた。しかし、そういう天才肌の男にありがちな高慢さは微塵もない。見ての通りである。彼のAR112は、ギターショップのウインドにあるものを衝撃的にいいと思い購入したそうだ。メインギターES175にはストラップのエンドピンのところに必ず歯ブラシを差し込む。暑い季節には、リーバイスを膝のところで不揃いにカットオフしたパンツ。そしてズタぐつをひっかける。これがパット・メセニー・サマーシーズン・スタイルである。胸のすくファッションではないか。



NEW COMER OF THE YEAR



8ビートによるアジテーションが、最もインターナショナルなコミュニケーションを形成する。



GARY MOORE

83年ニューカマー、ロードスターIIシリーズ。発表以来多くのトッププロから問い合わせやオーダーがとどいている。凄まじいヴァイタリティで年間200ものステージをこなす、ヘヴィメタルキッズのヒーロー、アイアン・メイデン。リードギタリストのデイヴ・マーレーが使用してくれている。そして狂気の早弾きと波乱に満ちた境遇で伝説化されていたギター・クレイジー、ゲイリー・ムーアが気に入ってくれた。スティーブ・ルカサーの愛器の仲間入りも果たしている。ゲイリー・ムーア。ライブでの彼は凄い。ドライブするスリリングなギターワークがオーディエンスの心胆さむがらしめる。しかし、素晴らしいスピードとパワーだけをトレードマークに、大見得をきっているばかりではない。彼のかもし出す限りなく美しく、繊細なメンタリティを秘めたメロディ・ラインこそが彼の本質なのだ。それをストレートにコミュニケートするために使う道具が、鍛え上げ磨き込まれた、彼のテクニックなのだと解釈したい。来日の折、ハードスケジュールの中で垣間見せた意外な素顔。もの静かではにかみ屋、驚くほどナイーブ。「ぼくの顔はスター向きじゃないよね。」なんてポツと言ったりする。自分の時間が戻ってくると一人ホテルの自室にこもる。まもなくギターの音色が聴こえてくる。ゲイリーは酒も煙草もやらない。そして信じられないほど優しい。



DAVE MURRAY (IRON MADEN)

RS1000

ARのプロダクトプロジェクトと、永い歴史の中で見つけ出した珠玉のノウハウ、そして海外でのロードスターの実績をミックス・アップ。アーチドトップとスーパー58ピックアップが枯れてタイトなサウンドを形成。チューニング、サポートシステムをマウントしたハードロッカー"プロ"トレモロユニットを搭載。弦振動のロスをシャッタウトします。イバニーズ快心のニューカマー。

RS315

DTシリーズで実証されたV-2の1ピックアップ。オリジナル・ハードロッカートレモロをマウント。スリリングなアーミングが可能。メイプル1ピースネックがサウンドの輪郭をきっちりと描き出します。



RS315CS



RS1000CS



RS315MS



GERRY BECKLEY (AMERICA)

スター・スパングルド・バナー（アメリカ国歌）は、S.フィッジェラルドのおじいさんによって書かれた。スコアの冒頭には、WITH SPIRITと記されている。

RS505、SINGLECOIL WITH SPIRIT.



RS505CS

RS505

バーズアイメイプルトップとシングルコイルピックアップ、そして勿論ハードロッカー・トレモロユニットを搭載。ネックジョイントに高さをもたせ、スムース・ピッキングを約束します。ローズウッド・フィンガーボードとSUPER POWER 6ピックアップが芯のあるトーンをバランスよくパフォーマンスします。



RS505BS



RS505BK



DT

朝がやってきたことを呪いつつ目覚める。いさかいを起こすためにブランケットをはね上げ、他人の気持を逆なでするためにジーンズを引き上げる。どうしようもない状態で誰かに会うために血がにじむほど歯を磨き、どれだけの出血があったのかを確かめるためにうがいをする。気に入らないことのリストを思い描き、一つ一つ確認しながら階段を降りる。どんな天候だろうが必ず舌打ちしながらドアを開け、気温をののしりながらブラックレザージャンパーを上体に張りつかせる。さて、きょうはどいつと喧嘩しようかと考えながら街に向って一歩踏み出す。ほどほどにしろ！と言ってくれる人を探しながら……。イバニーズデストロイヤーモデル。通り名DT。エイドリアン・スミス、ディヴ・マーレー（アイアンメイデン）、リチャード・ストッツ（プラズマティックス）ジェリー・ラフィー（ガール）などの昨年のスケジュールが前科である。
くどくどいわない。世界中どこの路地裏でも、これで堂々の決着がつけられる。



GERRY LAFFY (GIRL)

’83年型 偶像破壊システム。



DT100

あらゆる可能性が発揮されるギター。あのPS-10、ポール・スタンレー・モデルの伝統がヘッドシェイプに受けつがれた。メイプル1PCネックとローズウッド指板の基本形に、強力ブラストレモロをプラス。V-2PUは"芯"がしっかり通り、パワフル。

DT100FR

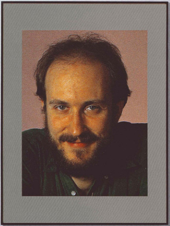
DT200

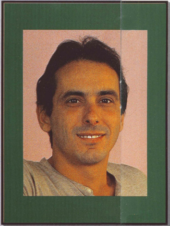
ディタッチャブルネックの鋭さはデストロイヤーそのもの。ハードロッカー"プロ"トレモロユニットが、まったく新しいテクニカルワールドをプラス。フロントPUにトライサウンドをプラス。ヘヴィ＋メロウ。

DT200FR

DT100MB

ほどほどに！ということがまったく理解できない、困った人々へ。





John
スコフィールドさん、日本のコルネット吹きの腕前は
いかがですか？

1951年、オハイオ州デイトンの生まれ。ジャズプレイヤーとしてはまだ若い。主にマンハッタンに点在するミュージックスポットや、スタジオがテリトリーである。仕事仲間の顔ぶれは、そうそうたる面々。泣く子も黙る人たちである。チェット・ベイカー、ジェリー・マリガン、チャーリー・ミンガス、ビリー・コブハム、テルマサ・ヒノ……。
彼は何でも出来る。ジャズをベースに、ロックからクラシックまで、巾広い音楽家だ。現代アートシーンの中核として機能しつづけるマンハッタンの宿命的な先進性の中で頭角を表わしてきた男たちに共通する、したたかな生命力を、彼から感じることは難しい。常に謙遜し、はにかんだように照れる。律気な人だ。最新作"シノーラ"のジャケットにこう記されていた。GUITARS COURTESY OF IBANEZ。マンハッタンというアメリカ全土から見れば、米粒ほどの島に凝縮されている文化容量は測り知れない。その中で光を増し続けるジョン。彼は私たちの誇りです。

John
トロペイさん、日本のコルネット吹きに
負けず劣らずハンサムですね。

N.Yで242-4694をコールするとセヴンス・アベニュー・サウスにつながる。しばらく前、ジョンはここで派手にやってくれた。ジョン・トロペイ、1946年生まれ。プエルトリコ出身。バークリーで学んだ後、直ちにスタジオワークを開始した。ハンサムなだけで食っていけないのはどこの国でも同じ。腕かラッキーか、それとも両方なのか。とにかく72年にはソロイストとして活躍していたという。フュージョンギター・フリークには、トロペイギターと呼ばれ、ポップでハッピーなギターが魅力。彼の名を世界に知らしめたのは、かのデオダードオーケストラの"ツァラトストラはかく語りき"での光り輝くギターソロでである。今や名実共に、ニューヨーク・フュージョンシーンのフューチャード・アーティストである。彼特有の強いピッキングから弾け跳ぶグッドティストのサウンドは、イバニーズから発射される。日本のコマーシャルで、ニューヨーク、好きになるか、嫌いになるかどちらかしかないと語られたマンハッタン。ジョンはそのめくるめく渦の中を我が者顔に泳いでいる。

AS
独得のスタイリングは、プレイヤビリティを究極まで追求した結果の産物である。アメリカでのポピュラリティは自慢できる。強度、つまり物理的な意味でのタフネスとサウンドクリエーションの可能性をもっていない限り、アメリカでは見むきされない。この２つのファクターを見事にマッチングさせ、コンプリートされたのが'ASシリーズだと思っていただいて差しつかえない。

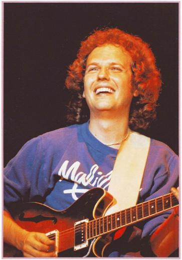
AM205
写真でお解りいただける、スモーラーサイズのセミアコースティックモデル。
より小さな共鳴器である事実を克服する手だては、マホガニー材による振動系数の強化でクリア。AS同様ジブラルタルIIブリッジとセンターブロックのコンビネーションで包み込むようなメロディラインをソリッドギターに近いフィーリングで生み出します。

AS80
メイプルとアッシュのセンターブロックが、ブリッジ、テイルピースをがっちりホールド。メイプルネックとマホガニーフィンガーボードもここへジョイントされ、ナットからの弦振動に歪みを与えることなくスーパー58ピックアップへ伝える。

AS200
クリヤーでナイーブなトーン。通りのよいリードプレイから、バランスのとれたバッキングまで、プレイの内容にこだわらず使用可能。フロントピックアップにトライサウンドスイッチを加え、シングルコイルサウンドも可能。アコースティックな空気のヴァイブレーションと、ウッドの振動、そして完成されたエレクトリックサーキット。


AM205AV AS80AV AS200AV

NEW YORK PERFORMING ART SCENE



LEE RITENOUR

リー・リトナーは、1952年のニューイヤーズデイに生まれた。U.S.C出身。イバニーズのクリエイティヴ・スタッフとしてすでにおなじみかと思う。日本での人気も高い。プレイぶりももうすっかり耳になじんでいることと思う。60年代に強烈なインパクトをともなって登場したロックは、70年代中盤にさしかかるころ、進む方向を見失い、活路を模索していた。そんなとき登場したのが、フュージョンであり、リー・リトナーだった。スタジオワークというミステイクの許されない環境の中で正確でスピーディなテクニックを磨き、時代の流れに実にマッチした音楽感性と相まって、当然のようにスターダムにおどり出た。時代が必要な人だった。カリフォルニアの空のようにぬけがよく、ストレートでフレッシュなサウンド、目を見張らせずにはおかないスーパーテクニック。最近ではプロデュース業にも精を出している。

LR10が描くパフォーミング・アーツはワーナーコミュニケーションズから発売されます。



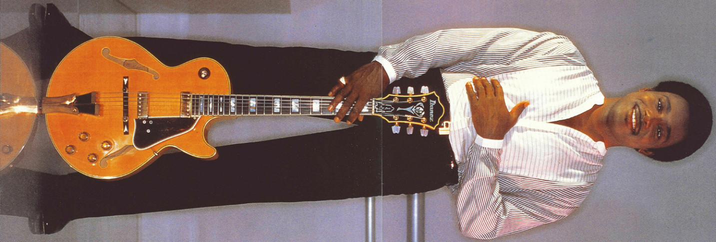
LR10AV

LR-10

発売以来世界中で絶賛され、セミアコースティックの代名詞となりつつあります。精密な製作工程とチェック過程を数多くくぐりぬけるため、オーダーに生産が間に合わず、ご迷惑をおかけしています。LR10は、リトナーのギタリストとしてのインテリジェンスと我々の永年培ったギターメイキングのノウハウがもたらした、まさに傑作ギター。セミアコースティックのジャンルに衝撃を与えたロングサスティーン。リトナーは愛用していたコンプレッサーを捨ててしまったという。スプルース、メイプル、マホガニー、スプルースの4ププライのセンターブロックに非対称コンビネーションネックをジョイントし、バターのように滑らかなプレイヤビリティを実現した。サウンドホールは特殊ウレタンとラバーでカヴァされ、ボディ内の空気振動を殺すことなくサウンドパフォーマンスに反映します。ピックアップはSUPER58改良のLRスペシャル。サウンドカタログはワーナーコミュニケーションズから　されています。

the newest portrait of george benson!

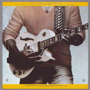
ミディアムゲージ・フラットワウンドの弦に、ミディアムサイズのピック がヒットした瞬間、彼のイバニーズは、"愛"について語りはじめる。



ジョージ・ベンソン。1944年3月22日、ペンシルヴァニア州ピッツバーグの生まれ。貧しく、恵まれず、絶望的な環境に生まれ育ったと聞く。スポーツか音楽が彼らに残された僅かな将来性のチャンスだった。彼は後者に賭けた。ジョージと我々のつきあいは長く深い。スタッフがジョージについて語るときは、思わず遠くを見る目つきになる。ハッピーそのものの彼のミュージックを愉しむときも、彼の語る生い立ちのことや、家族のことがオーヴァーラップし、やるせない感情をおさえることができない。
現在、ジョージはハワイに大勢の家族とともに暮らしている。本当に目に入れても痛くないといった風情の子供たちに、たっぷりとした陽光とフリーダムな貿易風をプレゼントして暮らす。彼はここから仕事場へ出かける。彼のようなオネストマンを私たちは知らない。彼が唄う。彼がギターを弾く。彼が汗を流す。彼が笑う。彼が泣く。それらはすべて、彼の「愛についての行為」に他ならない。

GB10

ジョージのアドヴァイスをもとに、繊細な心くばりをほどこしたファンキーでポップなギター。透明で澄んだ音色が特色。ステージアクトに自由をもたらすスモーラーサイズが、フィードバックも解消。高音弦側と低音弦側のテンションを自在に変えられるデュアルテンション・テイルピースとフローティングマウントのピックアップは、Bodyの振動を決して妨げません。又、ボーンとブラスを組み合わせたハーフ・アンド・ハーフナットが開放弦のトーンを統一します。エリック・クラプトンの僚友、アルバート・リーが目下精力的に使用中。





JP20



ジャズギターの世界で実力、人気とも最高と誰しも語るのがジョー・パスである。
ジャズギターについて何かを教わろうとしたら、まずこの人をおいて他にない。事実我々はそうしてきた。論理的にさとすように語る。
ジョー・パス、1923年1月13日、ペンシルヴァニア州ジョンズタウン生まれ。9才のときからギターを手離したことがない。"ヴァーチュオーゾ"と呼ばれ、名人としてうやまわれている昨今であるが、ご多聞にもれず、彼にもつらい日々があった。サンタモニカにあるシナノンでの10年間である。この時代の多くのジャズプレイヤーのメンタルなシックネスは語り草となっている。ジョーはジャンキーである自分を解き放すためのこの10年間もギターを放さず、コンボを作って演奏していたという。まさにギターを杖変わりにした人生である。イバニーズとジョーとの関係もキャリアを重ねた。パイプをくねらせ、スリーピースをピシッと着こなしたミスター・パスからは想像つかないフランクなリレイションを続けている。最高級コニャックの味わいともいわれる彼のインプロヴィゼーションがイバニーズから溢れ出すのをじっくりと味わうのは至上の悦びである。

ジョー・パスのギターを創ることは、世界中のギタークラフトマンの夢であるに違いない。
JP-20は、イバニーズがジョー・パスの意向をもらさず形にかえた工芸品である。
深くて柔らかいサウンドのためのエボニーブリッジとテイルピース。
ロングプレイに耐えうるボディウエイトとサイズ。スリムで薄めのネックと、あらゆるスケールをどんなポジションでも行える25½インチスケールのフィンガーボード。これらすべてがジョーのリクエストである。伝統だったヘッドのウラコブも除去した。ジョー・パスがイバニーズに望んだ最初の一言は「Light-weight !」だった。ウォームでディープなサウンドづくりのテーマとしては若干つらい要望がファーストリクエストだったのだ。ぜひ一度手にとって、体の一部としてすっぽりフィットする感覚をお確かめ下さい。ジョー・パスのような音が出ないじゃないか。というクレームにお応えする義務は一切無いものとこころえます。なぜかは十分ご承知のはずですから。



JOE PASS

NEW COMER OF THE YEAR



RB924OS

1983年、最もヴァイタルなスキャンダル

ソリッドでタイト。エレクトリック・ベースとして必要な機能以外はなし。カタチも然り。意を決して徹底的にトレーニングをくり返したヘヴィー級コンテンダーだ。RB、おことわり申し上げるが、ほどほどに、とか、適当に、とか、の概念はさらさらない。飼いならし、躾ていただかねばならない。意気に感じ、すすんで危険に身をさらす真のダンディにこそふさわしい一本と考える。固有の方法でボディ・トーキングをひそかに愉んでいただけるはずだ。全身で立ち向かっていただきたい。ほどなく男の世界をお見せできる。

RB820

アルダー材のボディでサウンドの腰を鍛えた。1ピックアップ、直截でシンプル。サウンドヴァリエーションは、トライサウンドスイッチがうけ負う。新しいヘッドのスタイルは、ウエイトバランスとネックの振動の相関により完成した独得のシェイプとなった。



RB820SS

RB920

トップは厳選されたバースアイメイプルを採用。より引き締ったタイトなベースサウンドは、全機種にマウントされたアキュキャストBⅡブリッジがうけとめる。ベース弦のヴァイブレーションをボディにうけとめるためのシステムのポイントとなるこの部分への情熱は、サドル部分を従来のイモネジ式からヒンジ機構にする、サドルの高さを一本のスクリューで行うという機能性の優秀さにつながる。アタックの強いチョッパー奏法でも歪みなし。

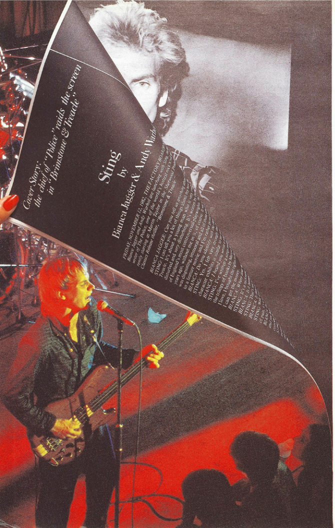
RB924

RBシリーズ唯一の24フレット、角度つきヘッドを持つ。高フレットでも澄んだトーンをゲインするよう、テンションを強化しつつ、ローポジションでは、あくまでも弾きやすさを確保するポリシーがつらぬかれた。
MCシリーズで好評のピックアップ・バランサーを搭載した、2ピックアップシステムでパーカッシヴな威力。リアピックアップは同じくTRI SOUNDをマウントした。ハムバッキングでフロントのスーパーP5Sと合わせ、イバニーズ特有のディタッチャブル・ベースサウンドを放出する。



RB920BS





STING (THE POLICE)

BIANCA JAGGER : Does your band still exist?
STING : Yes.

from ANDY WARHOL'S MAGAZIN "INTERVIEW"





MC924DS

ミュージックシーンのトップランナーがスクリーンを駆けぬける。

アンディ・ウォーホール一家が出しているインタビュー・マガジンで、久し振りに我らがスポークスマン、スティングが気勢を挙げている。相手はかつてのミック・ジャガー夫人、ビアンカ。
新作のムーヴィーをネタにクチャクチャとやっている。読み進んでいくと、「バンドはまだ続いているの？」「イエス。」にぶつかる。どうしちゃったのかなあ、と思っている全世界のポリス・フリークにとって、これが現実的な存在証明となる。
言いたいことがまだまだあるのだろう。ま、そのうち、又、例のお説教を、例のリズムで煮っころがし、例のシャレで味つけして、テーブルに運んでくれるはずだ。
彼のエピソードには事欠かない。オフステージのスティングは何をしているとお思いか？ひたすら肉体を鍛えている。徹底的にボディビルディングに汗する。凄い。彼のシェイプアップされたセクシーな肉体、フィジカル・フィットネスこそが主体的な彼の存在証明なのかもしれない。
ポリスサウンドは頭脳ばかりでなく、肉体をも直撃する。80年代流、最もインテリジェンスにあふれたトリオだといっていいだろう。スティングは、ポリスになる前は、ハイスクールで国語とサッカーを教えていた。スクールボーイ以外を相手に教鞭をとるようになった動機とは一体何だったのだろうか。とにかくその知性と肉体そして、もろもろの決意が、イバニーズをわしづかみにしてステージに上っていく。名前をここに記すのはひかえるが、ロックシーンのビッグネームが羨望し、嫉妬するのはよくわかる。彼らを敵にまわすと分を悪くする。彼らは社会現象なのだ。現代を形づくる時代そのものなのだ。社会学を修めるつもりなら、彼らに教わるといい。
スティング、1951年、イングランド、ニューキャッスル生まれ、女優のフランシス・トネルティが彼の妻である。アクターとしての自己採点は、蕾の状態のローレンス・オリビエだと答えている。



MC940DS

MC940

MCシリーズのフレットレス・ベース。硬質のエボニーフィンガーボードが、アコースティックな弦鳴りをもたらします。アコースティックとエレクトロニクスの調和は3バンドEQが絶妙にマッチングさせ、他に類を見ないフレットレス・サウンドを実現。あらゆる音場特性に応じた周波数補正が手元で可能。



MIKE PORCARO (TOTO)



マイク・ポカロ、1955年5月29日生まれ。ディヴィド・ハンゲイトからトトのベースラインを引きついだ。ポカロ3兄弟の次男である。最もハンサムなポカロとして日本でもベーシスト人気投票の上位に顔を出すようになった。

トトのプロモーション・フィルムや、ライブで接する限り、もうすっかりトトのメンバー。ジェフとともにトトのリズムラインをしっかりとしめる。ボズ・スキャグスやラリー・カールトンのツアーメンバーとして日本のステージにも何度か登場している。スティーブ、ジェフ同様ダイナミックなリズム感が身上。

80年代をリードすると自他ともに認めるアメリカンバンド、トト。スティーブ・ルカサーのページでもふれたが、彼らは底ぬけにオープンな気質を有する。スカッとクリアーなヒューマンティがサウンドにも反映している。アメリカは東から西へ開拓された。ウエスタン映画でお馴染みの西部開拓史である。逞ましい男たちが自分だけの意志と行動力と腕力によって際限のない自由の中に生きていた時代、カリフォルニアは多くのパイオニアーズの目的地だった。トトのメンバーは、カリフォルニアンである。いわば、西部開拓史を生きた人々の息子たちなのだ。カリフォルニアから発生する様々なムーブメント、カリフォルニア・ヴァイブレイションは、いまだに続く西部開拓史のパートIIなのかもしれない。アメリカン・ドリームのスピリットは、星条旗に星が50個整列した今もなお胎動している。

パートIIのパスファインダー（先駆者）たちは、かつての6連発、コルトフロンティア・モデルにかわり、ニュー・フロンティア・スピリッツとエレクトロニクスを駆使する。

コルト・フロンティア・モデルは、1836年に創られた。軍用としてピースメーカーと名づけられた45口径のものと、民間用に44口径のものがあった。民間用のものは、コルト・イコライザーと呼ばれた。つまりこれさえもてば、小男も優に大男に匹敵するという意味である。

マイク・ポカロは、ジャパンツアー中、MC924の3バンド・イコライザーをたくみに駆使し、サウンドゾーンを構成していた。コルト・イコライザーと、イバニーズMC924に装着されたイコライザーのスピリットは大きな武器という点では同一である。150年をへだてて存在するフロンティア・スピリッツが構成したという意味でも、又、違いはない。



ニュー・フロンティア・スピリッツと
エレクトロニクスを駆使する
ウエスタン。

MC924

MCシリーズ独得のロングサスティンとアタックのきいたサウンドは、スルーネックタイプならではのもの。24フレットの全域にわたり完璧なプレイアビリティをおとどけします。ベース専用の3バンドEQがマウントされ、ローノイズでライブからスタジオまで、あらゆる音場適正をもたらします。スーパー・エレクトリックベース、MC。

日本人のパイオニア・スピリッツも完璧にフォローできるはず。心ある方に。



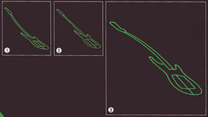


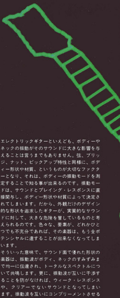
MC824

ワンピックアップ+トライサウンドシステムが、シンプルなスルーネックサウンドをパフォーマンス。体に馴染みやすいボディシェイプフィンガーボードはローズウッド。クロームのハードウエアとダークスティンのつや消しフィニッシュが迫力。

GENERAL INFORMATION

世界のトップ・ミュージシャンが育てあげたIBANEZ EL. GUITARとBASSには、クラフトマンの技術と、芸術とも言える楽器づくりのノウハウが生きづいています。経験とカンという人間技の他に、大きなポイントとして、最新のオプト・エレクトロニクスや、マイクロプロセッサー・テクノロジーを導入した数々のデータが生かされ、IBANEZのポリシーに、役立っているのです。





エレクトリックギターといえども、ボディーやネックの振動がそのサウンドに大きな影響を与えることは言うまでもありません。弦、ブリッジ、ナット、ピックアップ特性と同様に、ボディー形状や材質、というものが大切なファクターとなり、それは、ボディーの振動モードを測定することで知る事が出来るのです。振動モードは、サウンドとプレイング・レスポンスに直接関与し、ボディー形状や材質によって決定されてしまいます。だから、外観だけのデザイン的な形状を追求したギターが、実質的なサウンドに対して、大きな危険を冒しているものと考えられるのです。色々な、要素が、どれかひとつでも不完分であれば、その楽器は、もう全ポテンシャルに達することが出来なくなってしまいます。

そういった意味で、サウンド面で優れた形状の楽器は、振動波がボディ、ネックのすみずみまで均一に伝達され、トータルなスペクトルについて共鳴します。更に、振動波が互いに干渉することを防がなければ、ウィーク・レスポンスや、クリアーでないサウンドとなってしまいます。振動波を互いにコンプリーメントさせることで、本当に鳴りのあるパワーが得られるのです。

こういった多方面に及ぶ振動の解析を行なうことで、ボディや、ネック・ヘッド部の形状や材質、そして重量までの良し悪しを判断出来ることがお判りいただけると思います。これらの要素は、トータルとして、互いに影響し合うため、最良の状態を求めるためには、更に調和のとれたものとして設計する必要があるのです。

図の映像は、ストラクチュラル・ダイナミック・アナライザーによる基本振動モードをコンピュータでディスプレイしたものです。それぞれ、AR、RBのパターンを示しています。ある特定の共振周波数の時、ギター本体の振動は、①→②→③→②→①→②…をくり返し行なって伝搬されます。具体的な解析は割愛しますが、このパターンと伝達関数特性等により、共振周波数、伝搬面積、減衰特性等の相関係数等が読み取れるのです。

この様に"楽器づくり"を他方面から分析することも、IBANEZギターの"根拠"であり、自信であるのです。ここで紹介した一部の例も、確実に生きているのです。

まさにin a good condition！



THE ULTIMATE EXPRESSION OF CRAFTSMAN-SHIP

MACHINE HEADS

イバニーズオリジナルマシンヘッドは全機種トルク調整付。ダイキャスト製により、高精度と完璧なチューニングが可能です。

Gear Ratio	
Velve Tune II	17：1
Swooth Tuner II	16：1
Swooth Tuner Mini II	16：1
Velve Tune B II	21：1

PICKUPS

SUPER 58

あくまでタイト。しかも芯のあるサウンドが得られます。高級アルニコマグネットの使用と、ウレタン塗付による絶縁、数値と"耳"により決定されたターン数が、クリアーな響きからウォームなオーバー・ドライヴまで、あらゆる表現を可能とします。

SUPER 58 JAZZ

スーパー58をベースに、AR1505の持つキャラクターにマッチングさせたマグネットとターンを与えました。更に、線径を等しく、フロント用とリア用の特性を変化させ、ギター本体とのトータルサウンドを描き出します。温もりのあるリアサウンドと、抜けの良いフロントサウンドはナチュラルトーンに最適です。

LR.SPECIAL

リー・リトナーのリクエストにより、スーパー58をアレンジしました。約10%のパワーアップはリトナーサウンドの重要な要因。それはボディー振動、空気振動をも含めた磁束の変化をキャッチする"技"から生まれ出されるのです。

GB.SPECIAL

フルアコ専用ハムバッカーです。特に限られたスペース収められたダブルコイルが、独特な、しかもバランスの優れた広い磁場をキャッチします。フローティングによるマウントとハウリング対策が、独自の発振源として多用されています。

V-2

フェライトマグネットのメリットをフルに生かします。最大級パワーと、アタッキーなロングサスティーンはむしろギターを選びません。オープンタイプ専用の固定方式により、センセーショナルなサウンドを創り出します。

SUPER POWER 6

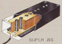
パワフルなシングルコイルです。初代スーパー6にて断面積の広いポールピースを逸早く採用し、安定したサウンドを送り続けています。エフェクターとのマッチングにも優れ、枯れたオールディなサウンドから張りのあるサウンドまで、シングルコイルの魅力を追求しました。



SUPER P5S

SUPER P5S

フロント用として特に重低音をバランス良くピックアップします。優れた音圧特性により、耳ざわりな"こもり"を少なくし、アタッキーでしかもタイトなサウンドは、チョッパー奏法でその威力を発起します。勿論サーキットはノイズキャンセラー。



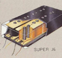
SUPER J5S

SUPER J5S

スルーネックのリア専用特性により、抜けが良く通りのあトーンを生み出します。

SUPER J6

スーパーJ5Sをベースにしたハムバッキング・タイプ。4芯シールドによりトライサウンドが可能です。1ピックアップスタイルでも、2ピックアップに近いサウンド・バリエーションが得られます。



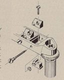
SUPER J6

BRIDGES

GIBRALTAR II

ロングサスティーンを得るためには、可能な限りシンプルに振動を伝達しなければなりません。弦の接触点からボディーまで、いかに振動をロスすることなく伝えるかがポイントです。イバニーズのジブラルタルIIブリッジは、振動の干渉を防止し、弦振動を100%生かすために、一体化設計され、複雑なハードウェアがまさにジブラルタル(要塞)と化するのです。

ブリッジサドルのトップとボトムが、本体をはさみ込んでロック。ボディーに埋め込まれたベースとせり上げをロック。このふたつのロック機構により、ぐらつきを完全にシャットアウトします。

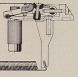


HARD ROCKER

繊細なビブラートから、ハードなアーミングまで、あらゆる使用に満足出来るトレモロユニットです。弦のテンションを生かしたサドルの固定方式により、ダブル効果でテンションダウンします。弦のUターン機構により、弦交換もスムースに行なえます。しかも、本体の高さ調整と、サドルの高さ調整が独立しているため、あらゆるニュアンスのセットアップが可能となり、可動範囲の大きなものから、アーミングダウンだけの場合まで、アクションを統一したまま、簡単に選べることが出来るのです。

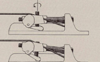
HARD ROCKER PRO

ハードロッカーに、チューニングサポート機構をプラスしました。プレッシャーパッドをサドルにはめ込むことで、弦をしっかりとロックします。弦のUターンを利用してあるため、小さな力でロックが可能です。しかも同時に、サドルを本体に固定するため、ジブラルタルIIと同様の"一体化"が行なえ、弦振動をロスすることなくボディーへと伝えます。使い勝手に応じた新感覚のオリジナルユニットです。



ACCU-CAST BII

IBANEZベースサウンドを支える機能面のひとつです。ブリッジサドルと、本体の接触性を考え、サドルをヒンジにすることで、完璧な接触が可能となっています。しかも、アジャストは、一本のスクリューで可能となり、ガタつきをシャットアウト。ベースギターの命とも言えるブリッジ部も、アキュキャストBIIにより、100%ジャストフィット！



CONTROLS

DUO SOUND SYSTEM

トーン・コントロール・ノヴ兼用タイプと、トグルスイッチタイプがあります。トーン・コントロール・ノヴ兼用タイプは、PUSH-PUSHスイッチにより、各ピックアップを独立して、ハムバッキング↔シングルの切換が出来ます。トグルスイッチタイプは、1つのスイッチで、2つのP.Uを同時に切換出来ます。いずれも・サウンド・バリエイションのひとつとして、強力な武器となります。



TRI SOUND SYSTEM

3ポジショントグルスイッチ(Black)によって、各ピックアップそれぞれのハムバッキング↔シングルコイル↔パラレルの選択が可能です。パラレルとは、通常のハムバッキング接続が、2つのコイルを直列につないでいるのに対し、並列に接続して、ハムバッキング効果を残したまま、シングルコイルに近いサウンドが得られるものです。シングルに比べれば、出力も大きく、厚味のある独特の音となり、音作りは無限のものとなります。



3BAND EQ SYSTEM

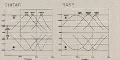
アクティヴ回路を用いた3バンド・イコライザーです。

	ギター	ベース
バス／	230Hz	88Hz
ミドル／	600Hz	500Hz
トレブル／	2KHz	1.4KHz

上の表の様に、バス・ミドル・トレブルの各周波数帯を、それぞれの中心周波数について、±15dBブースト・カット出来ます。又、ギターに組み込まれているEQ ゲイン



は、EQで作り上げたサウンドをそのままに、±6dBブースト、カットが出来るため、リアル・タイムでの使い勝手に充分応えうるシステムです。音場に合わせた周波数補整や、エフェクター的な効果として、プレイヤー独自のオリジナリティーのある使用が可能です。



PARTS,ACCESSORIES.

SURE GRIP II

ラバー部を側面から上面へ広げることで、よりプレイアビリティーを高めました。瞬時のコントロール変化や、早めのヴァイオリン奏法でも、すべりを生じません。
(BK、GLとも1個 ￥500)



DEAD END

ストラップ脱落防止設計のストラップピンです。ストラップへの加工をすることなく、あらゆるストラップの取付けが可能です。(GB、JPを除く全機種標準マウント。)
(GL1個 ￥300
CR1個 ￥250)



PRESSURE PAD

ハードロッカー・トレモロに取り付けることで、チューニング・サポートが行なえます。しかもブリッジ本体とサドルを一体化出来るため、弦振動のロスを極限まで防止出来ます。
(CR1セット￥2,000)



PICKS

数々のミュージシャンの間でもっとも多用されている型を集めてあります。お好みのものを選んで下さい。
● どれでも1枚60円。SHELL、WHITE、BLACKの3種類。15H、15M、4H、4M、10H、10M、6H、6M。
(10H、10M、6H、6MのみBLACKはありません。)(￥60)

★ルカサーピック1010SL

Steve Lukatherが使用しているIBANEZ PICKです。厚さはJUST1mmで極小タイプ。特にエッヂの処理を入念にしてあるため、ルカサー・フリークは勿論のこと、自称早弾きギタリスト諸君も、一見の価値あり。(￥100)



15　10　6　4　1010SL

THE BUG

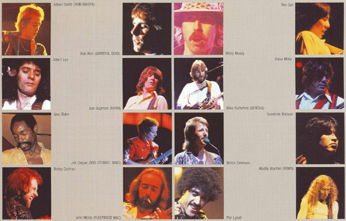
アコースティック、インストルメント用コンタクトピックアップです。フラットなレスポンスの、圧電型で、プリアンプを必要としません。アコースティック楽器のボディーやブリッジ部に取り付けることで、その振動をとらえ、本来の響きをそこなうことなくアンプへと伝えます。(￥8,500)



CASES

MODEL NO.	HARD CASE	BAG
AR100 AR300 AR305 AR550 AR1500 AR1505 AR112 AR100/L	AR300C (SHAPE) ¥13,000	253EG ¥9,500
AR1200	AR1200C (SQUARE) ¥28,000	
DT100 DT200	DT150C (SQUARE) ¥14,000	DT-EG ¥9,000
AS80 AS200	AS200C (SHAPE) ¥14,000	
RS315 RS505 RS1000	RS100C (HALF SHAPE) ¥10,000	253EG ¥9,500
LR10	LR10C (SHAPE) ¥18,000	
GB10	GB10SC (SHAPE) ¥15,000	
JP20	FG100C (SHAPE) ¥15,000	
AM205	AM50C (SHAPE) ¥13,000	253EG ¥9,500
MC824 MC924 MC940	MC824TRC (TRIANGLE) ¥17,000	253EB ¥10,000
MC924/L	MC824TLC (TRIANGLE) ¥17,000	
RB820 RB920	RB620C (HALF SHAPE) ¥11,000	
RB924	RB924C (SHAPE) ¥12,000	

SPECIAL THANKS to :



Adrian Smith (IRON MAIDEN)
Rex Goh
Bob Weir (GRATEFUL DEAD)
Micky Moody
Albert Lee
Steve Miller
Dan Dugmore (RONIN)
Mike Rutherford (GENESIS)
Tsunehide Matsuki
Alex Blake
Jim Cregan (ROD STEWART BAND)
Patrick Simmons
Waddy Wachtel (RONIN)
Bobby Cochran
John McVie (FLEETWOOD MAC)
Phil Lynott

Adrian Belew, Amos Grarret, Andrew Latimer(CAMEL), Barry B. Burton, Bob Geldof, Booker T. Jones, Bud Nuanez(SEAWIND), Buddy Blackum, Buster Williams, Charles Johnson, Colin Bass(CAMEL), Daizo Koshiba(ELEPHANTS), Daryl Stumer, Dee Dee Ramone(RAMONES), Derek Nakamoto(HIROSHIMA), Frank Diez, Hellmut Hattler, Hitoshi Shimizu, John Illsley(DIRE STRAITS), J. D. Souther, Kazuhiko Matsuo(OFF COURSE), Ken Hensley, Kenny Price, Lamer Williams, Lenny Coltun(HELEN REDDY BAND), Livingston Taylor, Mark Egan, Michael O'neill, Mike Bowden(EMMYLOU HARRIS BAND), Masahiro Ikumi, Mike Severs(DOLLY PARTON'S BAND), Paul Craft, Peter Bernstein(THE CRETONES), Richars tottsi(PLASMATICS), Roger Capps(PAT BENETER BAND), Steve Harris(IRON MADEN), Takeshi Daikatsu, Tim Weston(DR. STRUT), Tom Robinson, Tom Rutledge(DOLLY PARTON'S BAND), Victor Bailey, Yoshihiro Kurosawa

Thanks Also to : Osamu Kinoshita, Fritz Katoh, Ned Suzumura, Nobuaki Kumada, Nero Ando for Hoshino Gakki Group. Kiyoshi Nishigai : Polydor K.K., Aiichroh Kiyohara : Warner-Pioneer, Ken Watanabe : Nippon Phonogram Co., Takeshi Muto : Toshiba EMI, Minoru Sato, Akira Taguchi : Victor Musical Industries, Nobuo Seki : Alfa, Shinichi Takeshita, Udo Artists, Inc. Kyodo Tokyo, Inc. Ongakusha Co., Hideyuki Kunihara : Fuji Co., Kiichro Shimizu : TOA Studio, Kenji Suzuki, Koichiro Hiki : Photographer, Takanori Shimmura : Eyeland, Takashi Kosugi : Toppan Printing Co. Management : Hoshino Gakki Hanbai Co., LTD.

SPEC.

COLOR
CS : Cherry Sunburst　GL : Gold　FR : Fire Red
AV : Antique Violin　PW : Polar White　MB : Metallic Black
BS : Brown Sunburst　MS : Marine Sunburst　DS : Dark Stain
NT : Natural　BK : Black　SS : Silver Smoke

MODEL NO.	GB10	JP20	LR10	AS80	AS200	AM205	AR100	AR300	AR305	AR550	AR1500	AR1505
BODY	Spruce + Maple	Spruce + Maple	Flame Maple + Maple	Maple	Flame Maple	Burl Mahogany + Mahogany	Flame Maple + Mahogany	Flame Maple + Mahogany	Burl Mahogany + Mahogany	Flame Maple + Mahogany	Maple + Mahogany	Spruce + Mahogany
NECK	Maple 3 ply	Maple 3 ply	Mahogany + Maple + Mahogany	Maple 3 ply	Mahogany	Mahogany	Maple 3 ply	Maple 3 ply	Maple 3 ply	Maple 3 ply	Mahogany + Maple + Mahogany	Mahogany
FINGER BOARD	Ebony	Ebony	Brazilian Rosewood	Rosewood	Ebony	Ebony	Rosewood	Ebony	Ebony	Ebony	Ebony	Brazilian Rosewood
PICKUP	GB Special×2	Super 58×1	LR Special×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58×2	Super 58 "JAZZ"×2
SCALE	24 3/4"	25 1/2"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"	24 3/4"
FRET	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
BRIDGE	Ebony	Ebony	Special	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II	Gibraltar II
TAILPIECE	GB	JP	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II	Quick Change II
MACHINEHEAD	Velve Tune II (Acryl)	Velve Tune II (Acryl)	Velve Tune II	Smooth Tuner II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II	Velve Tune II (Acryl)
CONTROL	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.	1 Volume 1 Tone	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw. 1 Tri Sound Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw. 2 Duo Sound Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw. 2 Tri Sound Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw. 2 Tri Sound Sw.	2 Volume 1 Toggle Sw. 1 EQ. Gain 1 EQ. ON/OFF Sw. 1 LED 3 EQ. Tone (Treble) (Middle) (Bass) 1 Duo Sound Sw. (Both PU)	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw.
COLOR/PRICE	NT, BS ¥155,000	BS ¥165,000	AV ¥145,000	AV ¥90,000	AV ¥110,000	AV ¥100,000	CS ¥80,000	CS, AV, GL ¥100,000	AV ¥100,000	CS, PW ¥135,000	CS ¥150,000	AV ¥150,000
							Left Hand CS ¥95,000				Lacquer Finish Brass Nut	Lacquer Finish

MODEL NO.	AR112	AR1200	RS315	RS505	RS1000	DT100	DT200	MC824	MC924	MC940	RB820	RB920	RB924
BODY	Flame Maple + Mahogany	Solid Ash	Flame Maple + Basswood	Bird's-eye Maple + Alder	Bird's-eye Maple + Alder	Birch + Basswood	Birch + Basswood	Ash	Ash	Ash	Alder	Bird's-eye Maple + Alder	Bird's-eye Maple + Alder
NECK	Maply 3 ply	Maple 3 ply	Maple 1 pc.	Maple	Maple	Maple	Maple	Maple 5 ply Thrue Body	Maple 5 ply Thrue Body	Maple 5 ply Thrue Body	Maple	Maple	Maple
FINGER BOARD	Rosewood	Ebony		Rosewood	Rosewood	Rosewood	Rosewood	Rosewood	Ebony	Ebony	Rosewood	Rosewood	Rosewood
PICKUP	Super 58×2	Super 58×4	V-2×1	Super Power 6×3	Super 58×2	V-2×1	Super 58×1 V-2×1	Super J6×1	Super P5S×1 Super J5S×1	Super P5S×1 Super J5S×1	Super J6×1	Super J6×1	Super P5S×1 Super J6×1
SCALE	24 3/4"	24 3/4"	25 1/2"	25 1/2"	25 1/2"	25 1/2"	25 1/2"	34"	34"	34"	34"	34"	34"
FRET	22	22	21	21	21	21	21	24	24	Fretless	21	21	24
BRIDGE	Gibraltar II	Gibraltar II	Hard Rocker	Hard Rocker	Hard Rocker "Pro"	Brass Tremolo	Hard Rocker "Pro"	Accu Cast B II	Accu Cast B II	Accu Cast B II	Accu Cast B II	Accu Cast B II	Accu Cast B II
TAILPIECE	W-1500	W-1000 W-1500											
MACHINEHEAD	Smooth Tuner II	Smooth Tuner II	Smooth Tuner Mini II	Smooth Tuner Mini II	Smooth Tuner Mini II	Smooth Tuner Mini II	Smooth Tuner Mini II	Velve Tune B II	Velve Tune B II	Velve Tune B II	Velve Tune B II	Velve Tune B II	Velve Tune B II
CONTROL	2 Volume 2 Tone 1 Toggle Sw. 2 Duo Sound Sw.	1 Master Volume 2 Neck Volume 2 Neck Tone 1 Neck Selector 2 Toggle Sw. 4 Tri Sound Sw.	1 Volume 1 Tone	1 Volume 1 Tone 1 Toggle Sw. (5 Way)	1 Volume 1 Tone 1 Toggle Sw.	1 Volume 1 Tone	1 Volume 1 Tone 1 Toggle Sw. 1 Tri-Sound Sw.	1 Volume 1 Tone 1 Tri Sound Sw.	1 Volume 1 Tone 1 PU Balancer 1 EQ. ON/OFF Sw. 3 EQ. Tone (Treble) (Middle) (Bass)	1 Volume 1 Tone 1 PU Balancer 1 EQ. ON/OFF Sw. 3 EQ. Tone (Treble) (Middle) (Bass)	1 Volume 1 Tone 1 Tri Sound Sw.	1 Volume 1 Tone 1 Tri Sound Sw.	1 Volume 1 Tone 1 PU Balancer 1 Tri Sound Sw.
COLOR/PRICE	AV ¥105,000	AV ¥200,000	CS, MS ¥60,000	CS, BS, BK ¥70,000	CS ¥85,000	FR, MB ¥60,000	FR, ¥78,000	DS ¥95,000	DS, PW ¥120,000	DS ¥130,000	SS ¥60,000	BS ¥70,000	CS ¥80,000
									Left Hand DS ¥135,000				



COVER : PAT METHENY

PROFILE

星野楽器販売株式会社　愛知県瀬戸市東長根町119　〒489

●製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。
このカタログ内容はＳ58.4.30現在のものです。

APR-83019